InterSec/NQ30a
InterSec/NQ30b
(Ver 2.2)

ユーザーズマニュアル

2006 年 4 月 20 日 版

日本電気株式会社

目次

・本書中の会社名、商品名等は各社の商標、または登録商標です。
・SecureVisorはNEC System Technologies, Ltd.の登録商標です。

１．はじめに

１．１　コンポーネント構成

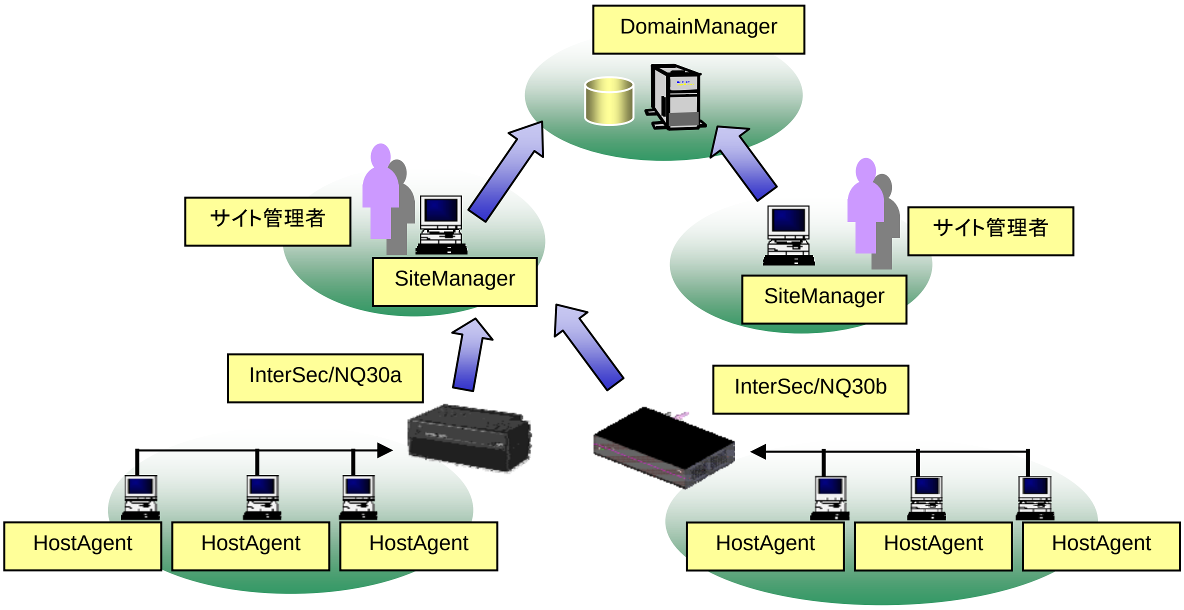
　InterSec/NQ30a Ver2.2、および InterSec/NQ30b Ver2.2 は、SecureVisor Ver2.2 NetworkAgent をアプライアンス化したものです。SecureVisor は下記のコンポーネントから構成されます。

コンポーネント	説明
SecureVisor DomainManager	SiteManager からのデータを収集します
SecureVisor SiteManager	NetworkAgent からのデータを収集し、DomainManager に転送します。
SecureVisor RemoteConsole	SiteManager の画面（サイトコンソール、ホスト一覧）を、リモートの PC から操作可能にします。
SecureVisor RemoteHosts	SiteManager の機能のうち、ホスト一覧のみをリモートの PC から操作可能にします。
SecureVisor NetworkAgent	ネットワーク上のパケットを監視し、データを生成し、SiteManager に転送します。
SecureVisor HostAgent	HostAgent インストールマシンの OS 種別やウィルスチェックソフトの情報を、NetworkAgent に転送します。
InterSec/NQ30a	SecureVisor NetworkAgent のアプライアンス版です。SecureVisor NetworkAgent とは設定方法などで異なる点がありますが、機能面で差異はありません。
InterSec/NQ30b	SecureVisor NetworkAgent のアプライアンス版です。SecureVisor NetworkAgent とは設定方法などで異なる点がありますが、機能面で差異はありません。

　本書では、このうち、InterSec/NQ30a、InterSec/NQ30b のセットアップ手順、およびコマンドラインインターフェースについて説明します。SecureVisor Ver2.2 NetworkAgent の詳細は、SecureVisor Ver2.2 のマニュアル・ヘルプを参照してください。

１．２　各モジュールの相関図

各モジュールの相関図を以下に示します。



InterSec/NQ30a、および InterSec/NQ30b は、各ネットワーク（＝IP サブネット＝ブロードキャストドメイン）に１台設置します。

１．３　用語説明

本書中の説明で使用する略語は、以下の通りです。

略語	意味
NQ30a	InterSec/NQ30a Ver2.2 を指します。文中にて左記の略語が指示された場合、InterSec/NQ30a Ver2.2 のみ該当します。
NQ30b	InterSec/NQ30b Ver2.2 を指します。文中にて左記の略語が指示された場合、InterSec/NQ30b Ver2.2 のみ該当します。
NQ	InterSec/NQ30a Ver2.2、および InterSec/NQ30b Ver2.2 を指します。文中にて左記の略語が指示された場合、InterSec/NQ30a Ver2.2、および InterSec/NQ30b Ver2.2 共通となります。
SiteManager	SecureVisor Ver2.2 SiteManager を指します。

１．４　関連マニュアル

NQ の導入に辺り、以下のマニュアル類を参照してください。

「InterSec/NQ30a スタートアップガイド」（NQ30a ユーザの場合）
「InterSec/NQ30b スタートアップガイド」（NQ30b ユーザの場合）
「SecureVisor SiteManager Ver2.2 インストールマニュアル」

２．セットアップ

２．１　セットアップ方法

NQ のセットアップ方法は、以下の 2 種類があります。

・USB メモリを使用して設定ファイルを反映させる
・telnet を介したネットワーク接続によりコマンドを入力する

USB メモリを使用した設定方法は、２．２章を参照してください。ネットワーク接続を使用した設定方法は、２．３章を参照してください。

２．２　USB メモリを使用したセットアップ

２．２．１　USB メモリを使用したセットアップ手順

USB メモリを使用したセットアップ手順は以下の通りです。

① SiteManager をインストールする

「SecureVisor Ver2.2 SiteManager インストールマニュアル」を参照し、管理サーバに SiteManager をインストールしてください。

② USB メモリに設定ファイルを作成する

USB メモリのルートフォルダに設定ファイルを作成してください。設定ファイルの作成方法は、２．２．２章を参照してください。NQ は、USB メモリのルートフォルダに保存された設定ファイルのみ認識することができます。

③ USB メモリを差込み、NQ を起動する

NQ 筐体へ、設定ファイルを保存した USB メモリ、ネットワークに接続された LAN ケーブル、電源ケーブルを接続してください。接続完了後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。

但し、初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合、電源スイッチを押下してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態からご確認ください。

なお、USB メモリから設定ファイルを認識させることができるのは、起動時のみです。NQ の起動後に筐体へ USB メモリを接続しても、設定ファイルを認識させることはできませんのでご注意ください。

④ USB メモリの認識状態を確認する

NQ が USB メモリを正常に認識したことを確認するため、起動から約 1 分経過後、NQ 筐体から USB メモリを取り外し、USB メモリを PC に接続してください。NQ が USB メモリを正常に認識できた場合は、USB メモリのルートフォルダにテキストファイル（svconflog.txt）が作成されます。テキストファイルの詳細は、６．２章を参照してください。

⑤ NQ の設定状態を確認する

NQ の起動時に、設定ファイルで接続先として指定した SiteManager インストール PC と正常に通信可能で、SiteManager サービスが起動している場合は、設定

ファイルにて指定したエージェント名のアイコンが SiteManager インストールPC上のサイトコンソールに表示されます。
サイトコンソールに表示されない場合や SiteManager サービスが起動していない場合は、６．３章を参照してNQの設定状態を確認してください。

２．２．２　設定ファイル作成方法

［ファイル名］

svconfig.txt　(全て半角小文字)

［注意事項］

・設定ファイルは、全て半角文字で作成してください。
・設定ファイルで使用可能な文字コードは、Shift-JIS、および EUC です。また、使用可能な改行コードは、<CR>+<LF>、および<LF>です。使用されるテキストエディタの設定をご確認の上、作成してください。なお、Windows 標準のメモ帳は前述の設定を満たしているため、問題なく使用できます。
・設定ファイルは、同一のパラメータを複数行記述しないでください。
・設定ファイルは、1 行につき 1 個のパラメータを記述してください。複数のパラメータを記述する場合は、改行してください。
・パラメータと設定値の間は、コロン（:）で区切ってください。
・設定必須パラメータは、パラメータに対する設定値を必ず設定してください。
・設定可能パラメータは、設定値がなければ設定ファイルへ記述しないでください。

［設定項目］

設定するパラメータは以下の通りです。

■設定必須パラメータ

パラメータ	設定内容
AgentName	サイトコンソールに表示されるエージェント名を設定します。1 個のみ設定可能です。 使用可能な文字は、半角英数字、ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)、小括弧((,))からなる 1 バイト以上 32 バイト以下の文字列で、大文字、小文字は区別されません。 また、以下に該当する文字列を設定した場合は、SiteManager に登録することができません。 ●Windows 予約デバイス名 (AUX、CON、NUL、PRN、CLOCK$、COM0～COM9、LPT0～LPT9) ●エージェント名の先頭、あるいは末尾がドット(.)である ●2 バイト文字(全角文字)を含む ●エージェント名の文字長が 32 バイトを超える

パラメータ	設定内容
IpAddress	NQ が使用する IP アドレスを設定します。1 個のみ設定可能です。
NetworkMask	NQ を設置するネットワークのネットワークマスク(サブネットマスク)を設定します。1 個のみ設定可能です。
ManagerAddress	NQ の管理/操作を行う SiteManager インストール PC の IP アドレスを設定します。ホスト名で設定することはできません。1 個のみ設定可能です。

■設定可能パラメータ

パラメータ	設定内容
DNSServer	NQ を設置するネットワークで使用されている DNS サーバの IP アドレスを設定します。最大 3 個まで設定可能です。複数の DNS サーバを設定する場合は、設定値を半角スペースで区切って記述してください。
DomainName	NQ を設置するネットワークのドメイン名を設定します。設定文字数の合計が 241 文字以内であれば、複数のドメイン名が設定可能です。複数のドメイン名を設定する場合は、設定値を半角スペースで区切って記述してください。なお、文字数制限には、複数設定時に引数の間に設定する半角スペースも含まれます。 ドメイン名を削除したい場合は、ダブルクォート（”）を使用して以下のように入力することで実行できます。 DomainName:””
DefaultGateway	NQ を設置するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。1 個のみ設定可能です。

[設定例]

AgentName:isnq30	エージェント名
IpAddress:192.168.250.250	エージェントの IP アドレス
NetworkMask:255.255.255.0	ネットワークマスク
ManagerAddress:192.168.250.249	サイトマネージャアドレス
DNSServer:192.168.250.2 192.168.250.3	DNS サーバアドレス
DomainName:isnq.dom	DNS ドメイン名
DefaultGateway:192.168.250.1	デフォルトゲートウェイ

２．３　ネットワーク接続を使用したセットアップ

２．３．１　ネットワーク接続を使用したセットアップ手順

telnet を介したネットワーク接続を使用したセットアップ手順は以下の通りです。

① SiteManager をインストールする

「SecureVisor Ver2.2 SiteManager インストールマニュアル」を参照し、管理サーバに SiteManager をインストールしてください。

② NQ を起動する

NQ 筐体へ、ネットワークに接続された LAN ケーブル、電源ケーブルを接続してください。接続完了後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。

但し、初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合、電源スイッチを押下してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態からご確認ください。

③ telnet クライアント PC を用意する

PC に NQ と同じネットワークの IP アドレス(例えば 192.168.250.111)を設定し、NQ と同じ LAN に接続してください。接続後、ping コマンドなどを使用して NQ との通信状態を確認してください。

［実行例］

```
C:¥> ping 192.168.250.250 (※)
```

※ 斜線部分は NQ に設定されている IP アドレス、あるいは IP アドレスに割り当てられているホスト名を設定してください。

NQ と通信できない場合は、NQ に設定されているネットワークと接続できるよう、telnet クライアント PC のネットワーク設定を変更してください。なお、NQ の初期ネットワーク設定は以下の通りです。

IP アドレス	: 192.168.250.250
ネットワークマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 192.168.250.1
DNS サーバアドレス	: 設定なし

④　ネットワーク接続を使用してセットアップする

telnet クライアント PC で、telnet を介して NQ に接続し、セットアップを行ってください。下記の例は、Windows PC のコマンドプロンプトを使用する場合です。設定しない属性については、該当のコマンドを実行する必要はありません。セットアップ完了後は、設定内容を反映させるため、必ず NQ の再起動を行ってください。なお、各コマンドの詳細は、３章、４章を参照してください。

［実行例］

```
C:¥>telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna> pass admin
+ Welcome to SvNaConsole.
svna> set us admin xxxxxxxx
+ Command succeeded.
svna> set if auto off
+ Command succeeded.
svna> set ns nameserver 10.1.2.6 10.1.2.7
+ Command succeeded.
svna> set ns domain isnq30.dom
+ Command succeeded.
svna> set if eth0 address 10.1.2.252 mask 255.255.255.0 gateway 10.1.2.1
+ Command succeeded.
svna> set hn isnq30
+ Command succeeded.
svna> set sm 10.1.2.253
+ Command succeeded.
svna> set na IpAddress 10.1.2.252
+ Command succeeded.
svna> set na CollectIpAddress 10.1.2.252
+ Command succeeded.
svna> set na NetworkAddress 10.1.2.0
+ Command succeeded.
svna> set na NetworkMask 24
+ Command succeeded.
svna> reboot
 + Command succeeded.
```

→ telnet によるネットワーク接続の詳細は３．２章参照

→ 認証コマンドの詳細は３．６．１章参照

→ パスワード変更コマンドの詳細は３．６．２章参照

→ ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドの詳細は３．６．６章参照

→ DNS サーバアドレス設定コマンドの詳細は３．６．９章参照

→ DNS ドメイン設定コマンドの詳細は３．６．１０章参照

→ ネットワークインターフェース設定コマンドの詳細は３．６．７章参照

→ エージェント名設定コマンドの詳細は３．６．１５章参照

→ マネージャ設定コマンドの詳細は３．６．１４章参照

→ エージェント設定コマンドの詳細は３．６．８章参照
また、設定可能な属性の詳細は４章参照

→ 再起動コマンドの詳細は３．６．１３章参照

⑤　NQ の設定状態を確認する

NQ の起動時に、接続先として設定した SiteManager インストール PC と正常に通信可能で、SiteManager サービスが起動している場合は、NQ に設定されているエージェント名のアイコンが SiteManager インストール PC 上のサイトコンソールに表示されます。

サイトコンソールに表示されない場合や SiteManager サービスが起動していない場合は、６．３章を参照して NQ の設定状態を確認してください。

３．コマンドラインインターフェース

３．１　コマンドラインインターフェース概要

　NQ では、コマンドラインインターフェースによって、NQ の設定を参照／変更することができます。コマンドラインインターフェースは、telnet を利用したネットワーク接続を介して NQ にアクセスすることで使用可能です。なお、NQ の設定を参照／変更する場合、認証コマンド（３．６．１章参照）を使用して各コマンドを実行可能な状態に遷移させる必要があります。

３．２　telnet によるネットワーク接続

telnet を介した NQ へのネットワーク接続方法を以下に説明します。

[書式]

```
telnet <host> 23496
```

[引数]

引数	説明
<host>	NQ の IP アドレスまたはホスト名

[説明]

NQ の 23496 番ポートへ telnet を介してネットワーク接続を行います。なお、使用ポートを変更することはできません。コマンドは、全て半角英数字で入力してください。

Tera Term を使用する場合、[File]→[New connection]を選択し、以下の設定を行ってください。

通信種別 ： TCP/IP
Host ： NQ の IP アドレス、またはホスト名
Service ： Telnet
TCP Port#： 23496

その他のターミナルソフトを使用される場合は、上記の内容を参考に接続先を指定してください。

[実行例]

```
C:¥> telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna>
```

[注意]

telnet を介した NQ へのネットワーク接続後、画面上にメッセージが出力されない、入力文字が表示されない、Enter キー入力による実行ができない場合の対処方法は、６．１章を参照してください。

３．３　認証前のネットワーク接続終了方法

［書式］

```
exit
```

［説明］

telnet を介して NQ へネットワーク接続した際に、認証コマンド（３．６．１章参照）実行前に接続を終了する場合は、以下のコマンドを実行してください。

なお、終了コマンド（３．６．１２章参照）とは異なり、quit コマンドは使用できません。

［実行例］

実行例	説明
C:¥> telnet 192.168.250.250 23496	ネットワーク接続を行う
- 400 require authentication	
svna> exit	ネットワーク接続を終了する
+ Goodbye.	
ホストとの接続が切断されました。	
C:¥>	

３．４　コマンド一覧

NQ でサポートするコマンドの一覧を以下に示します。本書で説明されていないコマンドはサポート対象外です。

説明	コマンド	参照
認証コマンド	pass	3.6.1 章
パスワード変更コマンド	set us	3.6.2 章
ネットワークインターフェース確認コマンド	list if	3.6.3 章
DNS 用のネームサーバ、ドメイン名確認コマンド	list ns	3.6.4 章
エージェント設定確認コマンド	list na	3.6.5 章
ネットワーク設定の即時反映機能設定コマンド	set if auto	3.6.6 章
ネットワークインターフェース設定コマンド	set if eth0	3.6.7 章
エージェント設定コマンド	set na	3.6.8 章
DNS サーバアドレス設定コマンド	set ns nameserver	3.6.9 章
DNS ドメイン設定コマンド	set ns domain	3.6.10 章
ヘルプコマンド	help	3.6.11 章
終了コマンド	exit quit	3.6.12 章
再起動コマンド	reboot set na reboot	3.6.13 章
マネージャ設定コマンド	set sm	3.6.14 章
エージェント名設定コマンド	set hn	3.6.15 章
初期化コマンド	init all	3.6.16 章
シャットダウンコマンド	shutdown set na shutdown	3.6.17 章

３．５　コマンド入力時の注意・制限事項

・　コマンド入力は、半角文字を使用してください。全角文字は認識できません。

・　入力文字が表示されない、Enter キー入力による実行ができない場合の対処方法は、６．１章を参照してください。

・　使用される telnet クライアント PC によっては、コマンド入力時に、[back space]、[delete]、方向キー等による入力文字の編集ができない場合があります。

・　コマンド実行時に表示されるメッセージから、成功、およびエラーを確認してください。下記に主な表示メッセージを示します。

メッセージ	内容
Welcome to SvNaConsole.	認証成功
Goodbye.	telnet を介したネットワーク接続終了
Invalid command.	コマンド実行エラー（コマンド入力ミスなど）
Command succeeded.	コマンド実行成功
400 require authentication.	telnet を介したネットワーク接続成功
403 bad pass phrase.	認証エラー
404 maximum retries.	認証パスワード入力 3 回失敗時の接続切断通知
500 generic error.	一般エラー
501 system error	システムエラー
502 no data.	データ（情報詳細）なし
503 invalid data.	不正なデータが設定
504 no record.	設定項目が見つからない

３．６　コマンドリファレンス

３．６．１　認証コマンド（pass）

［書式］

```
pass <password>
```

［説明］

認証コマンドを使用してログインすることで、NQ に対して全てのコマンドを実行可能な状態へ遷移します。telnet を介したネットワーク接続後は、本コマンドによって認証しなければ以降に説明する設定コマンドを実行できません。

<password> には認証パスワードを入力してください。認証パスワードの初期値は admin です。

なお、認証パスワードはセキュリティ対策として初期値から変更されることを推奨します。認証パスワードの変更方法は３．６．２章を参照してください。

［注意］

設定とは異なる認証パスワードを入力してコマンドを実行した場合、認証エラーが合計 3 回に達した時点で NQ へのネットワーク接続が切断されます。認証パスワードを入力せず、pass コマンドのみでコマンドを実行した場合は、認証エラーのメッセージが表示されますが、認証エラーとしてカウントされません。

［引数］

引数	説明
<password>	認証パスワード

［実行例］

```
svna> pass admin
+ Welcome to SvNaConsole.
svna>
```

３．６．２　認証パスワード変更コマンド（set us）

［書式］

```
set us <user> <password>
```

［説明］

認証パスワードを変更します。現バージョンでは、*<user>* には必ず admin を指定してください。

［引数］

引数	説明
<user>	ユーザ名。現バージョンでは admin 固定です。
<password>	設定変更後に使用する認証パスワード。 パスワードに登録可能な文字は、1 文字以上 8 文字以下の半角英数字、および半角記号からなる文字列です。8 文字より長い場合は、以降の文字列は認識されません。半角英字は大文字、小文字が区別されます。

［実行例］

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

認証パスワードを『abcxyz』に変更する

認証パスワードは、変更した文字列が正しく設定されたことを確認する必要があります。以降の［注意］、［確認手順］を参照し、確実に設定を行ってください。

［注意］

通常は、半角スペースを認証パスワードの文字列として認識しません。下記の場合、半角スペース以前の文字列を認証パスワードとして登録します。

```
svna> set us admin pass wd
```

→『pass』が認証パスワードとなる

認証パスワードに半角スペースを含める場合、ダブルクォート（”）を使用して設定してください。以下のようにダブルクォートで囲むことで、認証パスワードとして設定することができます。

```
svna> set us admin ”pass wd”
```

→『pass wd』が認証パスワードとなる

半角スペースを含む認証パスワードを設定した場合、認証コマンド（３．６．１章参照）を実行する際は、変更コマンドと同様にダブルクォートで囲んで指定してください。

```
svna> pass ”pass wd”
```

→認証パスワードが『pass wd』の場合

ダブルクォートを使用する場合、文字列の先頭にダブルクォートがあれば、次にダブルクォートが設定される位置までを認証パスワードと見なします。

```
svna> set us admin ”pass”wd”
```

→『pass』が認証パスワードとなる

ダブルクォートを使用した場合も、1 文字以上 8 文字以下の半角英数字、および半角記号のみ登録できます。8 文字より長い場合、以降の文字列は認識されません。

```
svna> set us admin ”passwd12345”
```

→『passwd12』が認証パスワードとなる

ダブルクォートが文字列の先頭に設定されているが、以降の文字列にダブルクォートが含まれていない場合、あるいは文字列の先頭以降にダブルクォートが設定されている場合は、ダブルクォートを認証パスワードの文字列の一部として設定します。

```
svna> set us admin ”passwd
```

→『”passwd』が認証パスワードとなる

```
svna> set us admin pass”wd”
```

→『pass”wd”』が認証パスワードとなる

[確認手順]

コマンド入力時に[back space]、[delete]、方向キー等による入力文字の編集ができない telnet クライアント PC を使用される場合、認証パスワード入力時に方向キーなどを押下すると、画面上に反映されなくても文字列として認識してしまうことがあります。

そのため、認証パスワードの変更時は、以下の手順で正常にログインできることを確認することを推奨します。手順は、コマンドプロンプトを使用した場合となります。

① 認証パスワードを変更する

telnet を介したネットワーク接続を行い、認証コマンドでログインした後、認証パスワード変更コマンドを使用して認証パスワードを変更してください。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

認証パスワードを変更する

② 新たにネットワーク接続を行う

①で接続中のコマンドプロンプトのネットワーク接続を終了させず、新たにコマンドプロンプトを起動させ、NQ へネットワーク接続を行ってください。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
C:¥> telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna>
```

別のコマンドプロンプトから接続する

③ 新規接続から認証コマンドを実行する

②で NQ へ接続したコマンドプロンプトから認証コマンドを使用して、①で設定したパスワードでログイン可能か確認してください。パスワードが異なる場合は、認証エラーとなります。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
- 400 require authentication
svna> pass abc
- 403 bad pass phrase.
```

認証コマンドでログインできない場合

パスワードが正しい場合、正常にログインできます。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
svna> pass abcxyz
+ Welcome to SvNaConsole.
svna>
```

認証コマンドでログインできた場合

④　新規接続から認証コマンドでログインできない場合

①で設定したパスワードを使用しても正常にログインできない場合、変更コマンド使用時に方向キー押下などによる不正な文字列が含まれた可能性があります。①でログイン中のコマンドプロンプトより、認証パスワードを再設定し、③の確認手順を行ってください。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
svna> pass abcxyz
- 403 bad pass phrase.
svna>
```

認証エラーとなった場合

↓

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

認証パスワードを再設定する

```
svna> pass abcxyz
- 403 bad pass phrase.
svna>
```

３．６．３　ネットワークインターフェース確認コマンド（list if）

[書式]

```
list if
```

[説明]

ネットワークインターフェースの設定状態を表示します。

[実行例]

```
svna> list if
= Command succeeded.
eth0    inet addr:192.168.250.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
        Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.250.255
        Default Gateway:192.168.250.1
        UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
+ Done.
svna>
```

[表示項目]

項目	説明
inet addr	IP アドレス
HWaddr	MAC アドレス
Mask	ネットワークマスク（サブネットマスク）
Bcast	ブロードキャストアドレス
Default Gateway	デフォルトゲートウェイ

３．６．４　DNS ネームサーバ、ドメイン名確認コマンド（list ns）

[書式]

```
list ns
```

[説明]

DNS サーバの IP アドレス、ドメイン名を表示します。

[実行例]

```
svna> list ns
= Command succeeded.
nameserver 192.168.0.6
nameserver 192.168.0.7
domain isnq.dom
+ Done.
svna>
```

[表示項目]

項目	説明
nameserver	DNS サーバの IP アドレス
domain	NQ が属するドメイン名

３．６．５　エージェント設定確認コマンド（list na）

[書式]

```
list na
```

[説明]

エージェント設定を表示します。確認可能な項目については、４章を参照してください。

[実行例]

```
svna> list na
= Command succeeded.
ManagerIpAddress: 192.168.250.251
…
+ Done.
svna>
```

３．６．６　ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンド（set if auto）

［書式］

```
set if auto { on | off }
```

［説明］

ネットワークインターフェース設定コマンド（３．６．７章参照）を実行した時に、設定内容が反映されるタイミングを変更します。設定が有効（*on* ）の場合、ネットワークインターフェース設定コマンドによる設定内容は、コマンド実行直後に反映されます。設定が無効（*off* ）の場合は、NQ の再起動時に反映されます。初期状態では有効が設定されています。

本設定が有効の場合、ネットワークインターフェース設定コマンドを使用して IP アドレスなどを変更すると、コマンド実行直後に反映され、NQ へのネットワーク接続が切断されることがありますのでご注意ください。

［実行例］

```
svna> set if auto off
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．７ ネットワークインターフェース設定コマンド（set if eth0）

［書式］

```
set if eth0 [address 〈address〉] [mask 〈mask〉] [gateway 〈gateway〉]
```

［説明］

ネットワークインターフェース設定を行います。set if eth0 のみを実行した場合は、エラーとなります。

［注意］

本コマンドを使用して IP アドレス、またはネットワークマスクの設定変更を行う場合、エージェント設定の変更が必須となります。本コマンド実行後は、エージェント設定コマンド（３．６．８章参照）を使用し、変更した内容に合わせてネットワークアドレス、ネットワークマスクの設定を行ってください。（４章参照）

なお、ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンド（３．６．６章参照）が有効の場合、本コマンド実行直後に IP アドレスなどの変更が反映され、NQ へのネットワーク接続が切断されることがあります。ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドを無効に設定し、全ての設定を変更後、NQ を再起動させる手順を強く推奨します。

［引数］

引数	説明
〈address〉	NQ の IP アドレス
〈mask〉	ネットワークマスク
〈gateway〉	デフォルトゲートウェイ

[実行例]

```
svna> set if auto off
+ Command succeeded.
svna> set if eth0 address 192.168.250.250 mask 255.255.255.0 gateway
192.168.250.1
+ Command succeeded.
svna> set na NetworkAddress 192.168.250.0
+ Command succeeded.
svna> set na NetworkMask 24
+ Command succeeded.
svna> reboot
+ Command succeeded.
```

→ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドの詳細は３．６．６章参照

→ネットワークインターフェース設定コマンドの詳細は本章参照

→エージェント設定コマンドの詳細は３．６．８章参照
また、設定可能な属性の詳細は４章参照

→ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドを無効に設定した場合は再起動コマンド（３．６．１３章参照）が必須となります

３．６．８　エージェント設定コマンド（set na）

［書式］

```
set na <attribute> <value>
```

［説明］

エージェントの属性を設定します。設定可能な項目は４章を参照してください。

［注意］

本コマンドを使用してエージェント属性を設定した場合は、NQ の再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

［引数］

引数	説明
<attribute>	設定項目
<value>	設定する値

［実行例］

```
svna> set na IpAddress 192.168.250.250
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．９　DNSサーバアドレス設定コマンド（set ns nameserver）

[書式]

```
set ns nameserver <server1> [<server2>...]
```

[説明]

DNSサーバの設定を行います。

[引数]

引数	説明
<server1>...	DNSサーバのIPアドレス。最大3個まで設定可能。複数のDNSサーバアドレスを設定する場合は、引数の間に半角スペースを入れてください。

[実行例]

```
svna> set ns nameserver 192.168.250.6 192.168.250.7
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．１０　DNS ドメイン設定コマンド（set ns domain）

［書式］

```
set ns domain <domain1> [<domain2>...]
```

［説明］

DNS ドメインの設定を行います。

［引数］

引数	説明
<domain1>...	DNS のドメイン名。複数のドメイン名を設定する場合は、引数の間に半角スペースを入れてください。 ドメイン名を削除したい場合は、ダブルクォート（”）を使用して以下のように入力することで実行できます。 　svna> set ns domain ””

［注意］

本コマンドは、パラメータに設定可能な文字数は 2000 文字です。文字数制限には、複数設定時に引数の間に設定する半角スペースも含まれますのでご注意ください。

［実行例］

```
svna> set ns domain isnq.dom
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．１１　ヘルプコマンド（help）

［書式］

help [*<command>*]

［説明］

コマンドのヘルプ情報を表示します。help のみを実行した場合はコマンド一覧を表示します。help で表示されるコマンドであっても、本書で説明されていないコマンドの使用はサポート対象外となりますのでご注意ください。

［引数］

引数	説明
<command>	使用方法を確認したいコマンド名

［実行例］

```
svna> help set
= Usage of set command:
set if <nic> [address <address>] [mask <mask>] [gateway <gateway>]
set if <nic> [on|off]
set na <attribute> <value>
set na [start|stop|restart|reboot]
set us <user> <password>
+ Done.
svna>
```

３．６．１２　終了コマンド（exit, quit）

［書式］

```
exit
または
quit
```

［説明］

telnet を介したネットワーク接続を終了します。認証コマンド（３．６．１章参照）による認証後は、exit コマンドと quit コマンドに動作の差異はありません。

［実行例］

```
svna> exit
+ Goodbye.



ホストとの接続が切断されました。
```

３．６．１３　再起動コマンド（reboot，set na reboot）

［書式］

```
reboot
または
set na reboot
```

［説明］

NQ を再起動します。reboot コマンドと set na reboot コマンドに動作の差異はありません。

［実行例］

```
svna> reboot
```

３．６．１４　マネージャ設定コマンド（set sm）

［書式］

```
set sm <address>
```

［説明］

SiteManager をインストールしている PC の IP アドレスを設定します。

［注意］

本コマンドを使用して SiteManager インストール PC の IP アドレスを設定した場合は、NQ の再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

［引数］

引数	説明
<address>	NQ の管理／操作を行う SiteManager インストール PC の IP アドレスを設定します。ホスト名で設定することはできません。

［実行例］

```
svna> set sm 192.168.250.251
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．１５　エージェント名設定コマンド（set hn）

［書式］

```
set hn <agentname>
```

［説明］

エージェント名を設定します。

［引数］

引数	説明
<agentname>	サイトコンソールに表示されるエージェント名を設定します。

［注意］

<agentname> へ登録可能な文字は、半角英数字、ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)、小括弧((,))からなる1バイト以上32バイト以下の文字列で、大文字、小文字は区別されません。また、以下に該当する文字列を設定した場合は、SiteManager に登録することができません。

- ●Windows 予約デバイス名(AUX、CON、NUL、PRN、CLOCK$、COM0～COM9、LPT0～LPT9)
- ●エージェント名の先頭、あるいは末尾がドット(.)である
- ●2バイト文字(全角文字)を含む
- ●エージェント名の文字長が32バイトを超える

本コマンドを使用してエージェント名を設定した場合は、NQの再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

［実行例］

```
svna> set hn isnq30
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．１６　初期化コマンド（init all）

［書式］

```
init all
```

［説明］

エージェントの設定を工場出荷時の値（初期値）に戻します。ただし、現在は制限事項（５章参照）があります。工場出荷時の値については４章を参照してください。

［注意］

本コマンドを使用して工場出荷時に戻した場合は、NQ の再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

［実行例］

```
svna> init all
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．１７　シャットダウンコマンド（shutdown、set na shutdown）

［注意］

　本コマンドは、Ver2.2c 以降の NQ で使用可能です。NQ のバージョン確認方法は、６．５章を参照してください。

［書式］

```
shutdown
または
set na shutdown
```

［説明］

　NQ を停止させます。shutdown コマンドと set na shutdown コマンドに動作の差異はありません。NQ 停止後、再度起動させる場合は電源ケーブルの抜き差しを行ってください。NQ30a の場合は、電源スイッチ押下でも起動可能です。

［実行例］

```
svna> shutdown
```

４．エージェント設定の詳細

エージェント設定の確認／設定項目に関して説明します。

※エージェント設定の確認は、３．６．５章（list na コマンド）を参照してください。
※エージェント設定の設定は、３．６．８章（set na コマンド）を参照してください。

［設定項目］

エージェントの設定で確認可能／設定可能な主な項目一覧を以下に示します。設定を変更した場合は、NQ の再起動を行ってください。以下に説明している項目以外はサポート対象外です。

属性項目名 [attribute]	説明	初期値 [value]
IpAddress	NQ が使用する IP アドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。（xxx は 10 進数）	192.168.250.250
CollectIpAddress	NQ の収集用 IP アドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。（xxx は 10 進数） なお、属性項目“IpAddress”と同じ値を設定してください。	192.168.250.250
Port	NQ の受信ポート番号。 属性値は、1～65535 の範囲内の数値を 10 進数で設定してください。 但し、ネットワーク接続で使用される 23496 番ポートは設定しないでください。	23491
NetworkAddress	NQ を設置するネットワークのネットワークアドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。（xxx は 10 進数）	192.168.250.0
NetworkMask	NQ を設置するネットワークのネットワークマスク（サブネットマスク）。 属性値は、8～30 の範囲内の数値を 10 進数で設定してください。	24

属性項目名 [attribute]	説明	初期値 [value]
ManagerIpAddress	SiteManager インストール PC の IP アドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。(xxx は 10 進数) マネージャ設定コマンド（３．６．１４章）でも設定可能です。	192.168.250.251
ManagerPort	SiteManager の受信ポート番号。 属性値は、1～65535 の範囲内の数値を 10 進数で設定してください。 但し、設定値が SiteManager に設定されている受信ポート番号と異なる場合は、SiteManager と通信できなくなりますのでご注意ください。	23490
CollectOfPacket	NQ のデータ収集状態。 設定を変更する場合、以下の値を設定します。設定値は、大文字、小文字を区別しません。 　データ収集開始： On 　データ収集停止： Off なお、NQ を SiteManager へ新規登録した場合は、サイトコンソールより収集開始を行わなければ SiteManager と正常に通信ができません。新規登録時は本コマンドから設定変更しないでください。	Off
NotifyInterval	NQ のデータ収集時に、収集したホスト情報を SiteManager へ通知する間隔。 通知間隔は、秒単位で 30～3600 の範囲の数値を 10 進数で設定してください。	60
JamStatus	NQ の不正接続防止の設定状態。 設定を変更する場合は、以下の値を設定します。設定値は、大文字、小文字を区別しません。 　不正接続防止機能有効時： On 　不正接続防止機能無効時： Off	Off

属性項目名 [attribute]	説明	初期値 [value]
	通常はサイトコンソールより設定を行う属性のため、本コマンドを使用して値を変更しないでください。	
OsDetect	OS デテクト機能の有効／無効設定 設定を変更する場合は、以下の値を 10 進数で設定します。 OS デテクト有効： 1 OS デテクト無効： 0	1
DontNotifyMacOnlyEntry	MAC アドレスしか収集されていないホスト情報の通知／非通知設定。 本属性は、NQ が MAC アドレスのみのホスト情報を収集した場合に SiteManager へ通知するかを設定します。非通知に設定した場合は、SiteManager へ通知されません。 なお、不正接続防止機能は IP アドレスが解決できていない場合は不正接続防止パケットを流すことができないため、MAC アドレスのみのパケットを流す機器が防止されることはありません。 設定を変更する場合は、以下の値を 10 進数で設定します。 非通知： 1 通知　： 0	0
TimeOut	NQ の通信処理時のタイムアウト時間。 秒単位で 10～360 の範囲の数値を 10 進数で設定してください。 通常は 20 秒（初期値）で問題ありませんが、SiteManager-NQ 間の通信速度が遅い場合や、SiteManager インストール PC のマシンスペックが低い場合は、本属性の設定値を大きくすることで通信エラーが改善されることがあります。	20

５．制限事項

・ NQ30a は、初期出荷製品は電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合は、電源スイッチを押下してください。機器を停止させる場合は、以下の何れかを実行してください。

●シャットダウンコマンド（３．６．１７章参照）を実行する

●電源スイッチを 5 秒以上押し続ける

●電源ケーブルを抜く

・ NQ30b は、電源スイッチがありません。電源ケーブルの接続により、自動起動します。機器を停止させる場合は、以下の何れかを実行してください。

●シャットダウンコマンド（３．６．１７章参照）を実行する

●電源ケーブルを抜く

・ 初期化コマンド（３．６．１６章参照）では DNS サーバアドレス、DNS ドメイン名が工場出荷状態に戻らないため、全ての設定値を初期化することができません。設定内容を削除したい場合は、「init all コマンド」実行後、「set ns コマンド」（３．６．９章、３．６．１０章参照）を使用し、DNS サーバアドレス、DNS ドメイン名を変更してください。

・ NQ では、NetBEUI プロトコルのパケットを解析できません。そのため、SiteManager のホスト一覧上で、NetBEUI フラグのチェックがつきません。

６．トラブルシューティング

６．１　NQ へのネットワーク接続時に文字が正常に表示されない

　telnet を介して NQ に接続した時に、出力文字が正常に表示されない、入力文字が表示できない場合、以下を確認してください。

■同一 PC 上で、同一の NQ に対して複数のネットワーク接続を行っている場合

　同一 PC 上で、同一の NQ に対して複数のネットワーク接続を行っている時に、一部の接続を切断すると、切断処理が正常に終了できない場合があります。切断処理が正常に終了できない場合に、再び同一 NQ へのネットワーク接続を行っても、正常に表示されなくなることがあります。

　以下に、コマンドプロンプト使用時に現象が発生した場合の一例を示します。

接続 1	接続 2	
C:¥> telnet 10.1.10.1 23496 - 400 require authentication svna>	C:¥> telnet 10.1.10.1 23496 - 400 require authentication svna>	① 複数の接続を行う
↓		
C:¥> telnet 10.1.10.1 23496 - 400 require authentication svna>	svna> exit + Goodbye. ホストとの接続が切断されました。 C:¥> telnet 10.1.10.1 23496	② 『接続 2』の接続を 切断し、再接続を行う
↓		
C:¥> telnet 10.1.10.1 23496 - 400 require authentication svna>		③ 再接続したコマンド プロンプトでは文字が 表示されない現象が 発生する場合がある

　『接続 2』のネットワーク接続を切断後、再接続させるため telnet コマンドを実行します（上記②を参照）。しかし、telnet コマンド実行後、『接続 2』にメッセージなどが一切出力されず、文字入力を行っても表示されなくなることがあります（上記③を参照）。

　上記の例は、同一のコマンドプロンプトを使用した場合となりますが、本現象は『接続 2』のネットワーク接続を切断後、新規にコマンドプロンプトを起動させ、『接続 3』として NQ へ接続しても発生する場合があります。

本現象は、同一 PC 上で行っている同一 NQ に対する全てのネットワーク接続を切断後、再接続を行うことで解消できる場合があります。

上記の方法で解消できない場合は､全てのネットワーク接続を切断して一定時間経過後、再接続を行ってください。一定時間経過後も表示が正常に行われない場合は､NQ の再起動を行ってください。

■NQ に対して単一のネットワーク接続を行っている場合

NQ に対して単一のネットワーク接続を行った際に文字が正常に表示されない場合､ターミナルソフトのローカルエコー設定、改行文字の変換設定が関与している可能性があります。以下は、コマンドプロンプト、および Tera Term での設定方法となります。他のターミナルソフトを使用される場合は、Tera Term の設定方法を参照し、設定内容をご確認ください。

◆ コマンドプロンプトの場合

コマンドプロンプトの場合、ローカルエコー設定が関与している可能性があります。以下の手順で telnet クライアント PC の設定を確認／変更してください。

① コマンドプロンプトを起動し、telnet コマンドを入力します。

```
C:¥> telnet
Microsoft (R) Windows 2000 (TM) Version 5.00 (Build 2195)
Microsoft Telnet クライアントへようこそ
Telnet Client Build 5.00.99206.1

エスケープ文字は 'CTRL+]' です

Microsoft Telnet>
```

引数は設定しない

② display コマンドを使用し、設定を確認します。

```
Microsoft Telnet> display
エスケープ文字は 'CTRL+]' です
自動認証 (NTLM 認証) を使う
ローカルエコーを使わない
CR と LF を送信します
使用する端末の種類をネゴシエートする

優先する端末の種類は ANSI です
Microsoft Telnet>
```

設定確認を行う

③ 入力文字が表示されていない場合は、ローカルエコーをオンにします。

```
Microsoft Telnet> set local_echo
Microsoft Telnet> display
エスケープ文字は 'CTRL+]' です
自動認証 (NTLM 認証) を使う
ローカルエコーを使う
CR と LF を送信します
使用する端末の種類をネゴシエートする

優先する端末の種類は ANSI です
Microsoft Telnet>
```

ローカルエコーを設定
設定確認を行う

※ 上記の設定を行った場合、PC の再起動後も設定が保存されています。
※ ローカルエコーの設定を戻す場合は、以下のコマンドを入力してください。

```
Microsoft Telnet> unset local_echo
```

④ telnet を終了します。

```
Microsoft Telnet> quit
```

◆ Tera Term の場合

Tera Term の場合、ローカルエコー設定、改行文字の変換設定が関与している可能性があります。以下の手順で telnet クライアント PC の設定を確認／変更してください。

[Setup] → [Terminal]

Receive	：CR	受信改行文字の変換設定
Transmit	：CR+LF	送信改行文字の変換設定
Local echo	：ON	ローカルエコー設定

６．２　USB メモリの認識を確認する

NQ と USB メモリの相性により、USB メモリによる設定が失敗することがあります。NQ 起動時に USB メモリを認識した場合は、USB メモリのルートフォルダに以下のファイルが作成されます。

存在しない場合、もしくはファイル内の日付または時刻が古い場合は、認識できていない可能性があります。２．２．１章のセットアップ手順を実行しても認識できない場合は、USB メモリを変更して実施してください。

なお、svconflog.txt は、USB メモリを認識できたかどうかのみを判断します。本ファイルの作成／更新によって、設定ファイルの反映が正常に行われたことを判断することはできません。

［ファイル名］

svconfig.txt　（全て半角小文字）

［ファイル内詳細］

```
YYYY/MM/DD hh:mm:ss JST: mount ok
```

［内容］

引数	説明
YYYY/MM/DD	svconflog.txt を作成した日付
hh:mm:ss	svconflog.txt を作成した時刻
JST:	日本時間であることを示す（固定）
mount ok	認識できたことを示す（固定）

［注意］

USB メモリ内に同一ファイル名があった場合は既存ファイルを削除し、新規作成します。

６．３　ネットワーク接続を利用してNQの設定を確認する

２章を参照してNQの設定を行った場合、SiteManagerインストールPCと正常に通信可能で、SiteManagerサービスが起動していれば、SiteManagerインストールPC上のサイトコンソールにエージェントアイコンが表示されます。
サイトコンソールに表示されない場合や SiteManager サービスが起動していない場合、下記の例を参照してNQの設定状態を確認してください。

※ 以下の手順は、NQに設定されているIPアドレスを把握していることを前提としています。NQのIPアドレスが分からない場合はネットワーク接続を行うことができないため、２．２章を参照してUSBメモリによる設定変更を行ってください。

① NQを起動する

NQ 筐体へ、ネットワークに接続された LAN ケーブル、電源ケーブルを接続してください。接続完了後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。
但し、初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30aが自動起動しない場合、電源スイッチを押下して起動してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態からご確認ください。

② telnetクライアントPCを用意する

NQへtelnetを介してネットワーク接続を行うPCを用意し、pingコマンドなどを使用してNQとの通信状態を確認してください。

［実行例］

```
C:¥> ping 192.168.250.250 (※)
```

※ 斜線部分はNQに設定されているIPアドレス、あるいはIPアドレスに割り当てられているホスト名を設定してください。

NQと通信できない場合、NQに設定されているネットワークと接続できるよう、telnetクライアントPCのネットワーク設定を変更してください。

③ NQにネットワーク接続する

３．２章を参照し、telnetクライアントPCからNQへネットワーク接続を行ってください。

④　各種設定を確認する

NQ へ接続後、下記の例を参考に設定状態を確認してください。

［実行例］

```
svna> pass admin                              →認証コマンドの詳細は３．６．１章参照
+ Welcome to SvNaConsole.
svna> list if                                 →ネットワークインターフェース確認
= Command succeeded.                            コマンドの詳細は３．６．３章参照
eth0    inet addr:192.168.250.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
        Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.250.255
        Default Gateway:192.168.250.1
        UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
+ Done.
svna> list ns                                 →DNS ネームサーバ、ドメイン名確認
= Command succeeded.                            コマンドの詳細は、３．６．４章参照
nameserver 192.168.0.6
nameserver 192.168.0.7
domain isnq.dom
+ Done.
svna> list na                                 →エージェント設定確認コマンドの詳細は
= Command succeeded.                            ３．６．５章参照、エージェント設定の
ManagerIpAddress: 192.168.250.251               各属性の詳細は４章参照
…
+ Done.
svna>
```

６．４　不正接続防止機能の強制停止

SiteManager インストール PC や NQ を不正接続防止した場合は、SiteManager-NQ 間の通信が正常に行えなくなり､SiteManager インストール PC から各種操作が行えなくなります。不正接続防止機能を強制的に停止させたい場合は、下記の手順を実施してください。

① NQ を停止する

NQ の電源ケーブルを抜いて、電源を停止してください。NQ30a の場合は電源スイッチの長押しでも電源を停止させることができます。

② SiteManager サービスを停止する

NQ の接続先に設定されている SiteManager サービスを停止してください。サービスの停止手順は以下の通りです。
Windows の[スタート]ボタン → コントロール パネル → 管理ツール → サービス → [SecureVisor SiteManager]を選択し、サービスを停止する。

③ SiteManager の管理するエージェント設定を変更する

SiteManager が保持している NQ のオブジェクトファイルを編集し、不正接続防止機能が無効となるよう設定します。
NQ のオブジェクトファイルは下記の場所にあります。

C:¥Program Files¥SecureVisor¥SiteManager¥Data¥AgentList¥*xxxx*¥attribute.dat

※ *xxxx* は、NQ のエージェント名を示します。

attribute.dat ファイルをメモ帳などのエディタで開き、不正接続防止機能（JamStatus）の属性を以下のように変更してください。

JamStatus: On

↓

JamStatus: Off

※ SiteManager のオブジェクトファイルは、文字コードを Shift-JIS、改行コードを<CR>+<LF>で作成されています。使用されるテキストエディタの設定をご確認の上、編集、保存を行ってください。なお、Windows 標準のメモ帳は前述の設定を満たしているため、問題なく使用できます。

④　SiteManager のサービスを開始する

NQ の接続先に設定されている SiteManager サービスを開始してください。サービスの開始手順は以下の通りです。

Windows の[スタート]ボタン → コントロール パネル → 管理ツール → サービス → [SecureVisor SiteManager]を選択し、サービスを開始する。

⑤　NQ の不正接続防止機能変更ファイルを作成する

NQ に設定されている不正接続防止機能を停止させるため、USB メモリのルートフォルダに以下のファイルを作成します。

[ファイル名]

svconfig.bat　（全て半角小文字）

[設定内容]

```
set na JamStatus Off
```

[注意事項]

- svconfig.bat を USB メモリのルートフォルダに作成する際に、設定ファイル(svconfig.txt)がルートフォルダにあれば削除してください。設定ファイルが存在する場合、防止機能変更ファイルが認識されません。
- svconfig.bat は、全て半角文字で作成してください。
- svconfig.bat で使用可能な文字コードは、Shift-JIS、および EUC です。また、使用可能な改行コードは、<CR>+<LF>、および<LF>です。使用されるテキストエディタの設定をご確認の上、作成してください。なお、Windows 標準のメモ帳は前述の設定を満たしているため、問題なく使用できます。
- [設定内容]で指定された記述以外は行わないでください。指定以外の記述を行われた場合はサポート対象外となります。

⑥　NQ を起動する

NQ 筐体へ、svconfig.bat を保存した USB メモリ、ネットワークに接続された LAN ケーブル、電源ケーブルが接続されていることを確認してください。接続確認後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。

但し、初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合、電源スイッチを押下してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態からご確認ください。

上記手順実行後、NQ は起動時に SiteManager へ接続することで設定内容が同期され、不正接続防止機能が無効となります。

不正接続防止機能を再度有効とする場合、ホスト一覧を使用し、ネットワークへの接続を許可する機器が全て接続許可状態になっていることを確認してから設定してください。

６．５　バージョン確認方法

NQ のバージョンは、SiteManager インストール PC から確認することができます。確認手順は、下記の通りです。

■NQ 単位で確認する場合

1. SiteManager インストール PC で、サイトコンソールを起動します。サイトコンソールの起動方法は、以下を参照してください。
   Windows の[スタート]ボタン → (すべての)プログラム → SecureVisor →サイトコンソール
2. サイトコンソールでエージェントのプロパティを選択し、エージェント設定ダイアログを起動させ、[バージョン情報]を確認してください。エージェントのプロパティ選択方法は、以下を参照してください。
   ・バージョン確認対象の NQ のエージェントアイコン上で、マウスの右ボタンを押下してポップアップメニューを表示させ、[プロパティ(P)...]を選択する。

   ・バージョン確認対象の NQ のエージェントアイコン上で、マウスの左ボタンを押下して選択する。選択後は、メニューバーより[ファイル(F)] → [プロパティ(P)...]を選択する、ツールバーの左から 2 番目の[プロパティ]ボタンを押下する、エージェントアイコン上でマウスの左ボタンをダブルクリックする、のいずれでもダイアログ起動が行えます。

■複数の NQ をまとめて確認する場合

1. SiteManager インストール PC で、サイトコンソールを起動します。サイトコンソールの起動方法は、上記の「■NQ 単位で確認する場合」の 1. を参照してください。
2. サイトコンソールのメニューバーより[ツール(T)] → [エージェント情報一覧(T)...]を選択する。エージェント情報一覧ダイアログが表示され、SiteManager が管理しているエージェントの IP アドレス、バージョン情報などを一括で確認することができます。